

## 特攻隊員たちの遺書

氏名

\*読みやすいように市田が簡単な言葉にしている部分もあります。

植村真久 享年 25 歳 生後間もない娘にあてた遺書  
昭和 19 年 10 月に出击、フィリピン沖で戦死

素子（もとこ）、素子は私の顔をよく見て笑いましたよ。私の腕の中で眠りもしたし、またお風呂に入ったこともありました。（中略）

素子という名前は私がつけたのです。素直な、心の優しい、思いやりの深い人になるようにと思って、お父さまが考えたのです。

私はお前が大きくなって、立派な花嫁さんになって、幸せになったのを見届けたいのですが、もしお前が私を見知らぬまま死んでしまっても、決して悲しんではなりません。（中略）

父は常に素子の身辺を守っております。優しくて人にかわいがられる人になってください。

追伸、

素子が生まれた時おもちゃにしていた人形は、お父さんが頂いて自分の飛行機にお守りにしております。だから素子はお父さんと一緒にいたわけです。素子が知らずにいると困りますから教えて上げます。

上原良司 享年 22 歳（安曇野市穂高出身）

陸軍特別攻撃隊第 56 振武隊員として沖縄嘉手納湾上の米海軍機動部隊に突入戦死。

2・26 以来、日本はその進むべき道を誤った。…権力主義者は己の勝利を願って、日本を永久に救われぬ道に突き進ませた。彼らは真に日本を愛せざるのみならず、利己に走って偉大なる国民に、その欲せざる方向を強いて選ばせ、無知なる大衆をだまし、戦争によって自己の地位をますます固くせんとした。

特攻隊員（振武隊）となりて…悠久の大義に生きるとか、そんなことはどうでも良い。あくまで日本を愛する。祖国のために独立自由のために闘うのだ。天国における再会、死はその道程にすぎない。愛する日本、そして愛する冷子ちゃん（亡くなった好意を寄せていた女性）。

自由な国（アメリカ）の勝利は明らかです。日本が負ける事は、国民の方々にとっては、とてつもない事が、訪れますが、しかし私は嬉しい。早く負けて、自由な国に、生まれ変わってほしい。特攻は一機械です。そんな私に、何も言う権利はありませんが、愛する日本を偉大な国へと導いてくれることを、国民の方々に願うばかりです。明日は自由主義者が、この世から去っていきます。彼の後ろ姿は寂しいですが、心中満足でいっぱいです。さらば、永遠に

\*見つからないよう仲間に託した手紙である。

小川清 享年 22 歳

1945年5月11日、海軍第721航空隊戦闘第306飛行隊として特攻出击、沖縄沖南西の太平洋上で米空母バンカーヒル号に体当たり戦死。

あの悠々たる白雲の間を越えて、坦々たる気持ちで私は出击して征きます。生と死と何れの考えも浮かびません。人は一度は死するもの、悠久の大義に生きる栄光の日は今を残してありません。

父母上様もこの私の為に喜んで下さい。



穴沢利夫 享年 23 歳

出撃当日、婚約者の智恵子さんにあてた手紙

昭和 20 年 4 月 12 日沖繩周辺洋上にて戦死（智恵子さんのマフラーを巻いて出撃）

あなたの幸せを願う以外に何物もありません。

無駄に、過去のことや過去の義理にこだわってはいけません。

あなたは過去に生きるのではありませんから。

勇気をもって過去を忘れ、将来に新しく生きる場を見出すことです。

あなたは今後の、一時一時の現実の中に生きるのです。

穴沢は現実の世界にはもう存在しません。

.....

いまさら何を言うのかと自分でも考えますが、ちょっぴり欲を言ってみたいです。

1、読みたい本、「万葉」「句集」...

2、観たい画、ラファエルの「聖母子像」、狩野芳崖（かのうほうがい）の「悲母観音」

3、智恵子。 会いたい、話したい、無性に。

今後は明るく朗らかに。

自分も負けずに朗らかに笑って征きます

前田啓 享年 23 歳

昭和 20 年 4 月 3 日 出撃

父母様 私は大いなる命令をいただき、征く事になりました。

二十年以上の今日に至るまで厚き御愛情を受け、何一つ孝行も出来ず御心配ばかりかけ申し訳御ざ  
いませぬ。厚く御礼申し上げます。

私は天皇陛下のため、太平洋の防波壁となり死にます。武人の名誉として、これ以上のものはあり  
ませぬ。私は元気旺盛で、意気は天まで届く有様です。御安心下さい。

最後に父上様御一同のご健康を御祈り申し上げます。

なお、特に自分の墓は不用であります。亡母の御墓の側に静かに寝かせて下さい。さようなら。

.....

俺が死んだら 何人泣くべ

氏名・生死不明 18 歳

お母さん、私は後 3 時間で祖国のために散っていきます。

胸は日本晴れ。 本当ですよお母さん。 少しも怖くない。

しかしね、時間があつたので考えてみましたら少し寂しくなってきました。

それは、今日私が戦死した通知が届く。お父さんは男だから わかっていただけだと思います。

が、お母さん。お母さんは女だから、優しいから涙が出るのでありませんか。

弟や妹たちも兄ちゃんが死んだとって寂しく思うでしょうね。

お母さん。こんなことを考えてみましたら私も人の子。やはり寂しい。

しかしお母さん。考えてみてください。

今日私が特攻隊で行かなければ どうなると思いますか。戦争はこの日本本土まで迫って、この世  
の中で一番好きだった母さんが死なれるから私が行くのですよ。

母さん。 今日私が特攻隊で行かなければ年をとられたお父さんまで銃をとるようになりますよ。

だからね。お母さん。 日私が戦死したからとって どうか涙だけは耐えてくださいね。

でもやっぱりだめだろうな。お母さんは優しい人だったから。

お母さん 私はどんな敵だって怖くはありません。 私が一番怖いのは、母さんの涙です。